

「京田辺市の社会教育について」に係る
京田辺市社会教育委員会議でのご意見要旨

1 令和4年度 第3回会議 「1 教育の質向上」について

- ① 大学生、現役世代等、若い世代が関わる地域行事などが不足している。
- ② 地域での活動に協力してもらう人材、特に若い世代に参画してもらいたい。そのためには、若い世代が参加しやすい地域行事など接点を増やす必要がある。
- ③ レモンを使ってまちの名産品を作る、という農業委員会の企画では、同志社女子大の学生がレモンポン酢の商品化に、主体的に関わっていた。各地域において、若い世代の参加を促すためには、この企画のように自ら参加したいと思える魅力ある地域行事を行っていくことが必要。
- ④ 昔は、青年団等の組織がしっかりとしており、横のつながりがあり、地域行事等にも若い世代を巻き込んで行われていた。二十歳のつどい（旧成人式）なども一回切りにせず、そういうものをきっかけとして、参加者たちが地域に主体的に集まれるような仕掛けづくりをすることなども一案。
- ⑤ 教育の質向上のためには、豊富な経験や専門的な知識を持つ、地域の団塊の世代を活用していったらいいのでは。
- ⑥ 様々な人々を繋げるコーディネーターが必要。人々を巻き込んでいく力のある人が必要。ただ、誰がその役を担うのか。

2 令和4年度 第4回会議 「2 学習機会の拡大」「3 福祉と社会教育」
について

- ① 講座の参加にあたって、全講座に参加が必要という条件が課されているものがあるが、そのような制限がなくなれば、もっと参加しやすくなる。
- ② 他市の事例では、通りすがりの誰もが参加できるオープンスペースで企画が行われており、さらにその参加者が、別の企画を立ち上げたりし、活動が広がっていっていた。そのようなことが京田辺市でもできればよい。
- ③ 市の主催事業や市内の団体やグループの主催事業等、市内には様々な学習機会があるが、小さなグループの事業は周知範囲が狭くなってしまう。それらをまとめて情報発信すればよいのではないか。

- ④ 若い世代から高齢者まで、広く周知させるには、各世代に合わせた多角的な情報発信が必要となっている。インターネットを活用するにしても、世代によって利用しているアプリが違い、それぞれの掲載が必要となり、また、広報紙は情報量が多く、高齢者には把握しきれないため、民生委員といった人々が対面で情報提供する、といった様々な対応が必要。
- ⑤ 権利の問題などがあるかもしれないが、講座の内容を動画配信すれば、参加できなかつた人も観ることができる。また、インターネットの動画の中には学習の教材としてよいものがたくさんある。
- ⑥ 講座の開催場所が自宅から遠いと、参加できない場合がある。それぞれの地区で講座を開催することも機会の拡大に繋がる。
- ⑦ 現在、講座等を利用しているのは、一部の人たちに限られている。それ以外の人たちが参加しやすい方法を検討すべきではないか。
- ⑧ 学校との連携や若い世代を取り込んで、自主的な講座を企画するといった様々な取組を行いたいというニーズがあるが、これらの実現のためにコーディネーター役が必要になる。
- ⑨ 市民の自主的な取組を先進的に行っている明石市のまちづくり協議会では、コーディネーター役もいて、よい仕組みづくりができていた。三山木地区でもまちづくり協議会ができたが、行政の支援に頼るだけでなく、市民が自主的に動き出せるようにしないといけない。

3 令和5年度 第1回会議 「4 施設・体制」「5 地域活性化」「6 学校と社会教育の連携（主に小学校区）」について

- ① 計画されている複合型施設は、イベントを積極的に発信できる施設が良い。また、相談員を充実させてほしい。
- ② 他市でいろんな団体が借りている施設がある。南部まちづくりセンターを見ても、運営は団体にお任せしたほうが良い。
- ③ 地域の公民館はあちこちあるが、複合型施設はいろんな人に活動をPRできる。せっかく作るのだから、情報共有できる施設が良い。
- ④ 地域住民が地域の施設で活動しない。地域の公民館にコーディネーター役の常駐の職員を置くと地域が活性化するのではないか。
- ⑤ 昔は地域の限られた範囲で活動するため消防団等の団体に加入したが、今は活動範囲も広まり、趣味でもいろいろなことができる。興味のある企画をすれば、人が集まる。
- ⑥ 地域に貢献してくれそうな人材がいれば、自治会の役員になってもらい、人材確保する。

- ⑦ 新興住宅地と旧村地域では課題が異なるため、地域活性化の対策を分け
て考える必要がある。
- ⑧ 地域に時間を使ってもよいという意思のある人材を発掘し、コーディネ
ーターになってもらえば、地域が活性化するのではないか。
- ⑨ 学校運営協議会のコーディネーターはボランティアなので、限界がある。
学校の先生は、時間がない。コーディネーターを有償にすれば、うまく
いくのではないか。
- ⑩ 子どもは、地域が主体となって学校に働きかけて、学校も地域も一体と
なって育てていきたい。教育課程を知っている、教員退職者等に活躍し
て欲しい。